

安芸太田町らしい教育のあり方懇話会

東日本大震災津波から11年

## 地域とともに高め合う教育の推進

認定特定非営利活動法人カタリバ 菅野祐太



# 菅野 祐太

- ・ 認定NPO法人カタリバ
- ・ 大槌町教育専門官
- ・ 岩手県立大槌高校カリキュラム開発等専門家
- ・ 文部科学省コミュニティ・スクールあり方検討会議委員
- ・ 内閣官房長官主催「こども政策の推進に係る有識者会議」臨時構成員
- ・ 総務省地域力創造アドバイザー

1987.3.29生（35歳）

1987年 神奈川県横浜市に生まれる

2009年 早稲田大学教育学部卒業

2009年 株式会社リクルートエージェント入社

2011年 同企業 4ヶ月休職し岩手へ(カタリバ)

2012年 同企業復帰（10ヶ月）

2012年 認定NPO法人カタリバへ転職

2013年 コラボ・スクール大槌臨学舎

2017年 大槌町教育専門官

2019年 岩手県立大槌高等学校 カリキュラム等開発専門家



(民間)

(NPO法人)

(町行政)

(学校)

# Vision

---

私たちが実現したい社会

どんな環境に生まれ育っても、  
未来をつくりだす力を育める社会

# Mission

---

私たちが果たす使命

意欲と創造性をすべての10代へ

# これまでの教育のあり方懇話会より

## これまでの 安芸太田町の教育

- 就学前から高校までの一貫した教育
- 協調学習等、先進的な学びを町全体で取り組んできた  
(小中高が一体となった取り組み)
- 協調学習の推進に向けた施設等ハード整備と研修体制の構築

## 委員の提言された教育理念

- 地域資源（特に十分に安芸太田町が持つ自然）を生かした教育
- こどもの意見表明（自己決定）権の尊重
- 理論を学ぶ教科をベースとした学習ではなく、体験をベースとした学習への転換

## 安芸太田町の住民の声

- 地域の歴史や文化と密着した教育
- 安芸太田町の持つ自然の資源を活用した教育
- 安芸太田町に住む人と関わり、愛着を育む教育

こどもたちの**主体性**を軸として、  
地域とこどもたちが**共に学び合い、高め合う地域づくり**

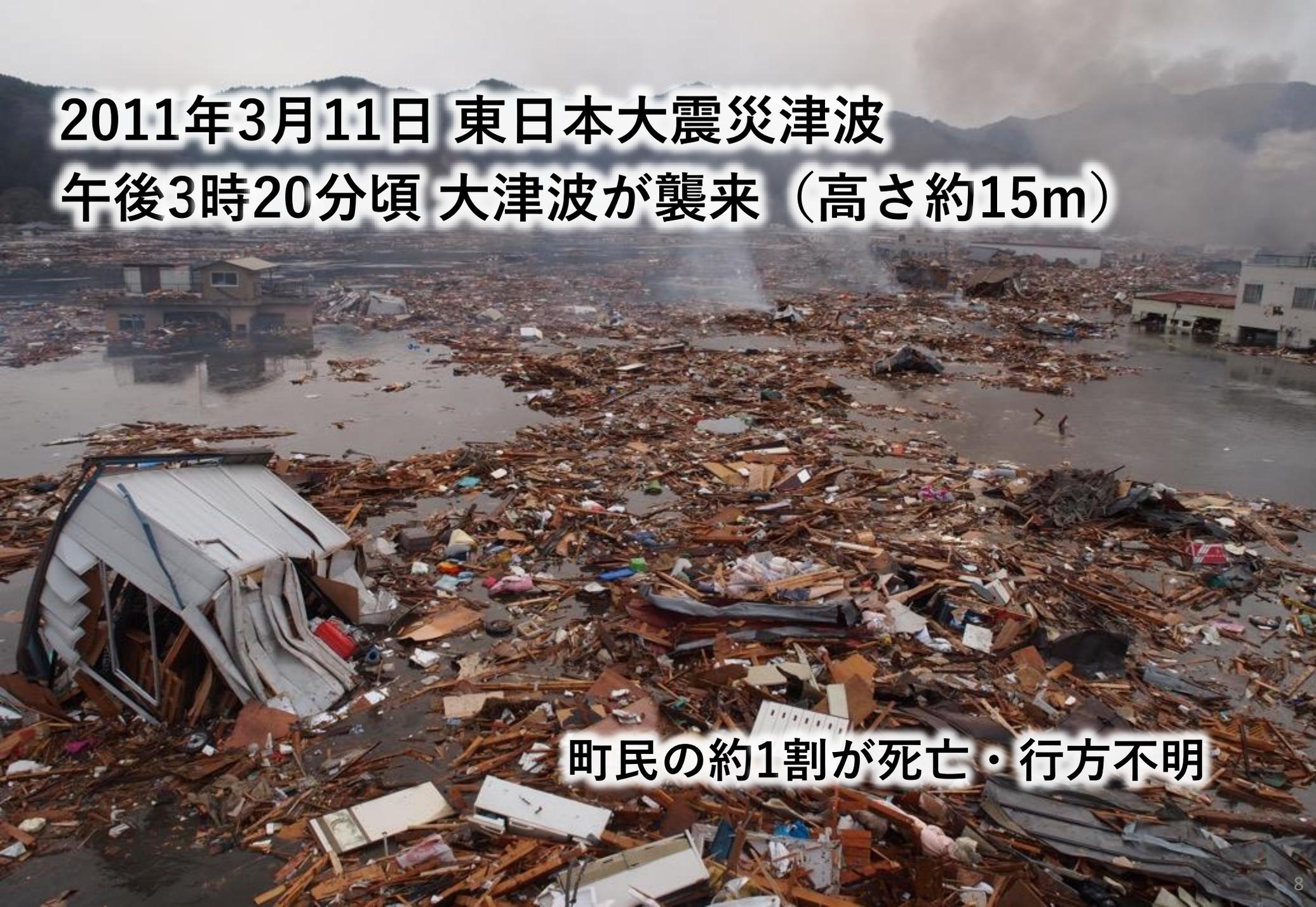
- 主体性を生かした**プロジェクト型学習**の導入
- 教育課程特例校制度を活用し、  
**地域とともに高め合う科目**を設置
- **住民参加型**の教育のあり方懇話会（推進会議）の設置

# 私のいる大槌町

人口：11,050人  
(R4.5.31時点)



# 東日本大震災



2011年3月11日 東日本大震災津波

午後3時20分頃 大津波が襲来（高さ約15m）

町民の約1割が死亡・行方不明

# 徐々に復興しつつある町並み



# 被害状況（子どもたちの学習）

	学校名	死者数	被害状況
小学校	大槌小学校	3名	焼失による使用不可
	大槌北小学校		浸水・損壊による使用不可
	安渡小学校		倒壊の危険性により、使用不可
	赤浜小学校		浸水・損壊による使用不可
	吉里吉里小学校		現在も使用中
中学校	大槌中学校	2名	浸水・損壊による使用不可
	吉里吉里中学校		現在も使用中

山田の青少年の家・  
吉里吉里小学校を間借り  
(体育館をダンボールで仕切って教室に)



大槌高校、吉里吉里中学校  
を間借りして再開

※大槌小、大槌北小、安渡小、赤浜小は2011年9月20日から大槌中学校は2011年9月22日から仮設校舎に移動

# 体育館を使った教室



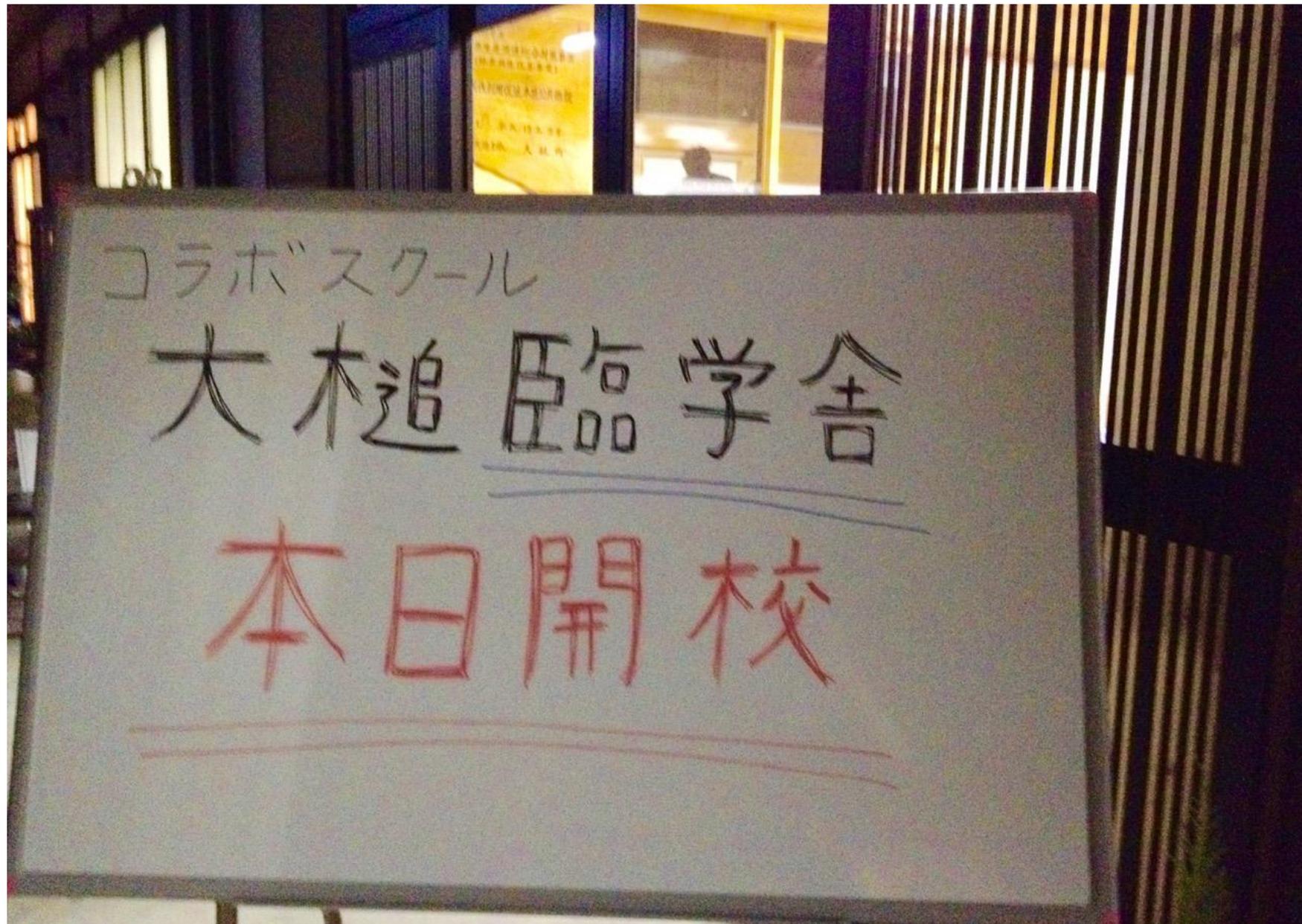
そんな時出会ったのが . . .



# はじまったコラボ・スクール



# はじまったコラボ・スクール



# はじまったコラボ・スクール



**主体性を生かしたプロジェクト型学習**

2  
地域が育つ  
マイプロ  
ジェクト



## 笑顔Photoプロジェクト

震災で写真も流されてしまったので  
笑顔の写真を配って地域の人たちを元  
気づけるプロジェクト

# 「マイプロジェクト」

実施内容と問いに対する結果

(実験やヒアリング、アンケートの内容をまとめる。写真なども貼って、自由に表現してください！)

活動を終えてみての感

(取り組んでみて感じたことや、楽しかったことなど)

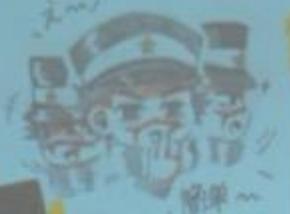
スーパーで食材を調達 買ったもの

- ・イクラ (味噌汁用)
- ・サケ (サケマスノ代用)
- ・新じゃが11kg x 2袋

★千房のラタンナ (11kg 混ぜたもの) - 30分ほど煮る、お湯で洗って混ぜる

★千房の汁 (11kg 煮)

味噌汁



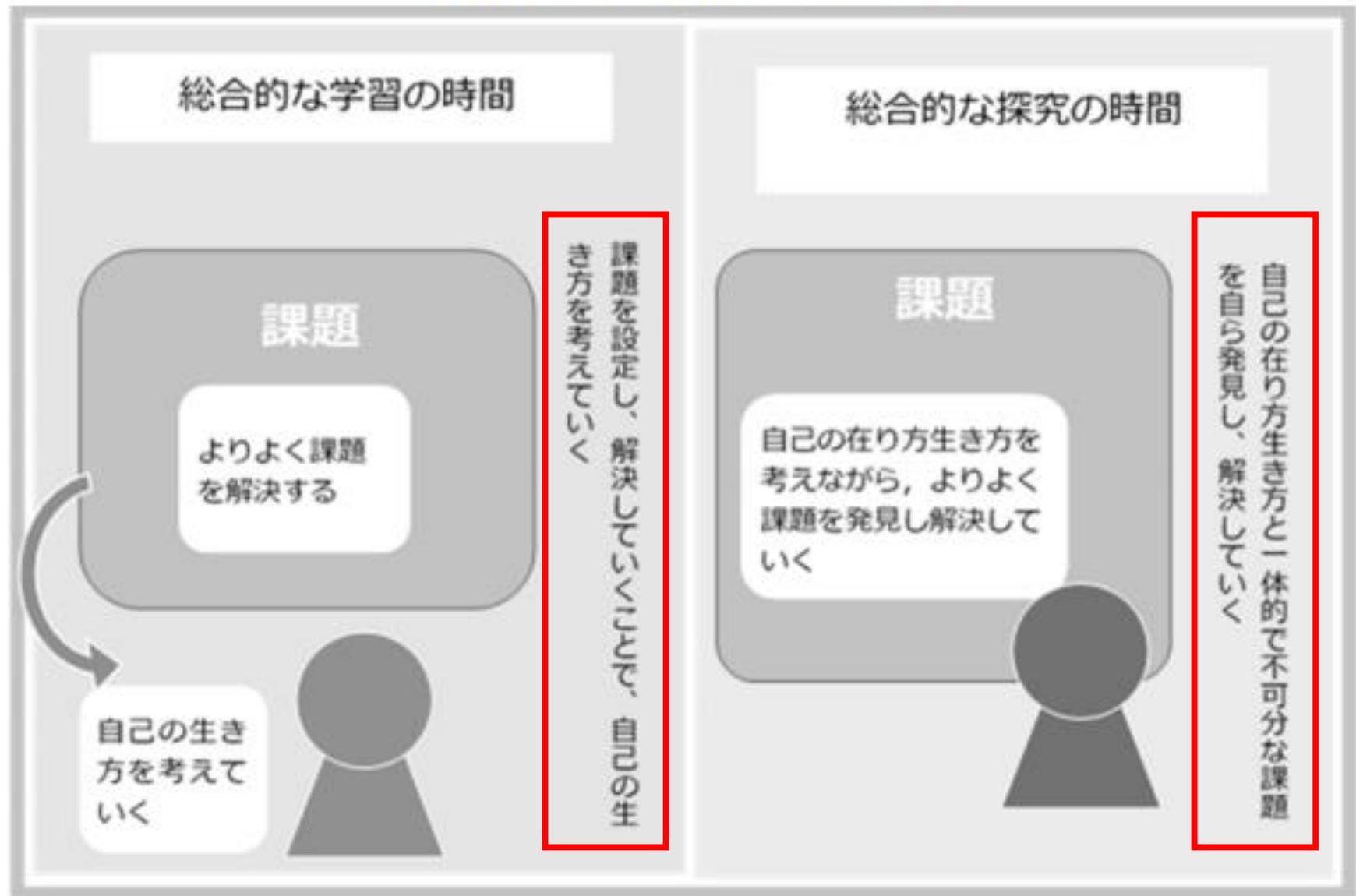
アイヌの料理と現代の食文化の両方を知りたい。まずはピザやカレーなどから作ってみよう。季節的に手に入る食材でアレンジしてみよう。

季節的に手に入る食材でアレンジしてみよう。

やりたいこと、興味あることからテーマをつくる

# 総合的な学習と探究って何が違うのか？

## 課題と生徒との関係（イメージ）





**“災害のときに助かる命を増やしたい”**

**災害時避難アナウンスの  
改善に向けた実験調査**



**“高齢者の笑顔を増やしたい”**



**高齢者対象の  
民謡披露イベント**

“郷土芸能の本質をつきつめたい”

プロジェクトを行おうと思った理由

“大神楽を「ただ楽しむ」ことは  
何か違う” という思い

郷土芸能が地域にもたらす  
影響の調査

# “食事と「幸せ」の 関係を知りたい”

きっかけ

おじいちゃんが糖尿病



好きなものを満足に食べられていない



おじいちゃんは**幸せ**なのか？



心も体も満足できる食事を！

健康を維持しながら  
幸福度を高められる  
食事メニュー考案

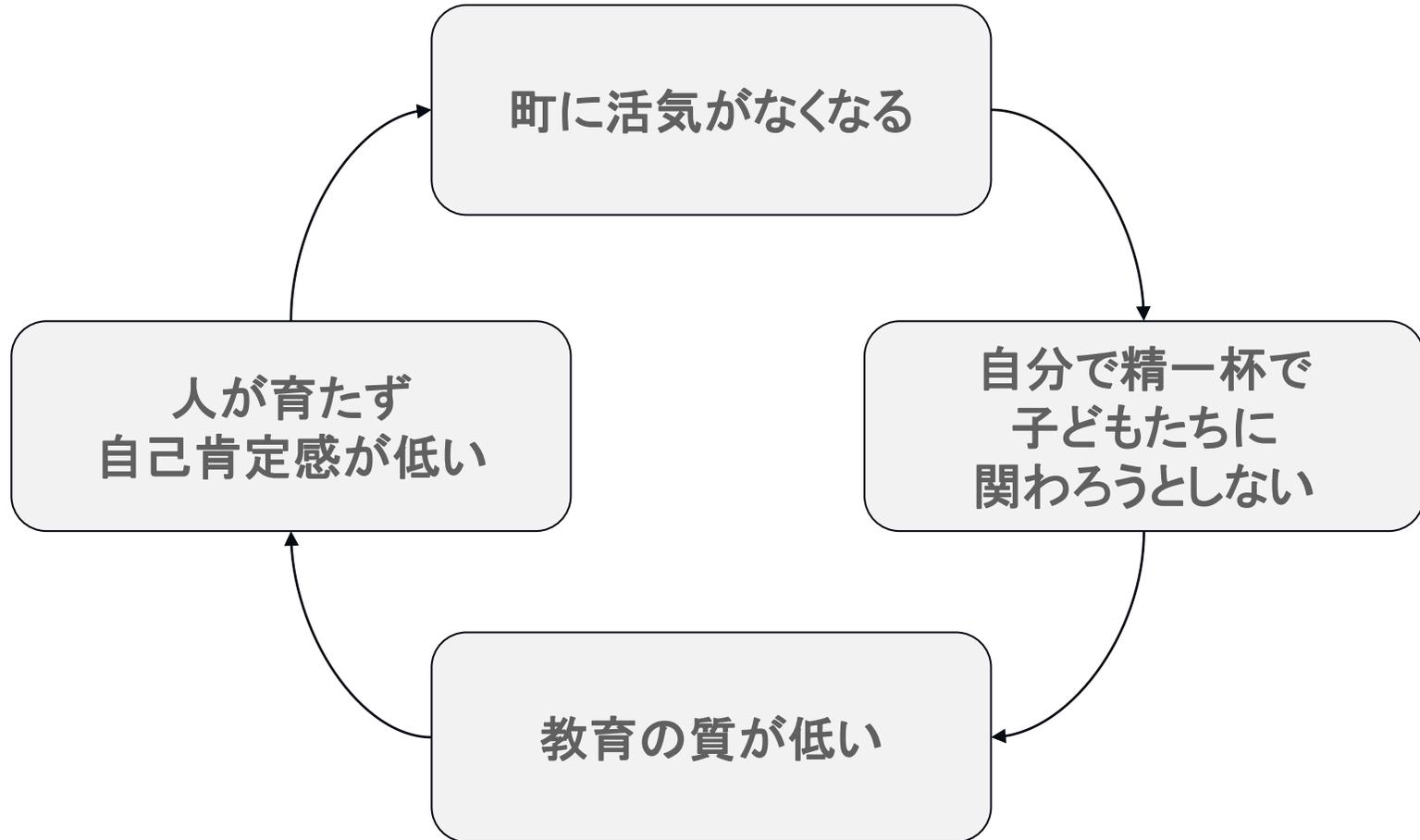
# 想像力は命を救う

本学高校卒業生 池田真実



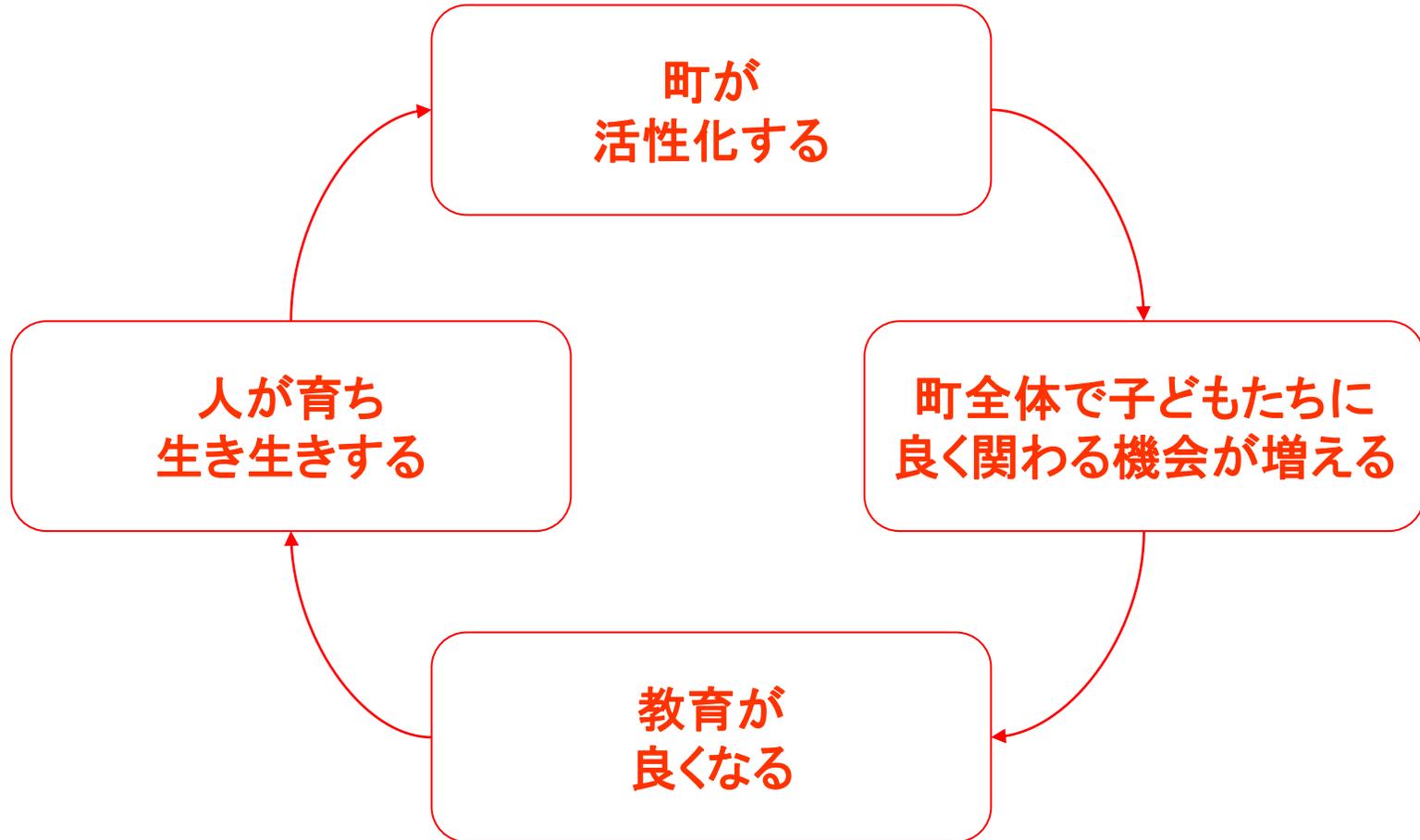


## ■ 教育とまちづくりの関係性



## ■ 教育とまちづくりの関係性

---



# 地域で育て、地域が育つ

教育を誰か任せにするのではなく  
みんなで協力し合いながら  
実行する町をつくる

**教育課程特例校制度を活用し  
地域とともに高め合う科目を設置**



学校・地域・行政が  
**総力戦**で臨む必要があった

# 大槌の取り組みーふるさと科ー



# 大槌の取り組み—海探検—



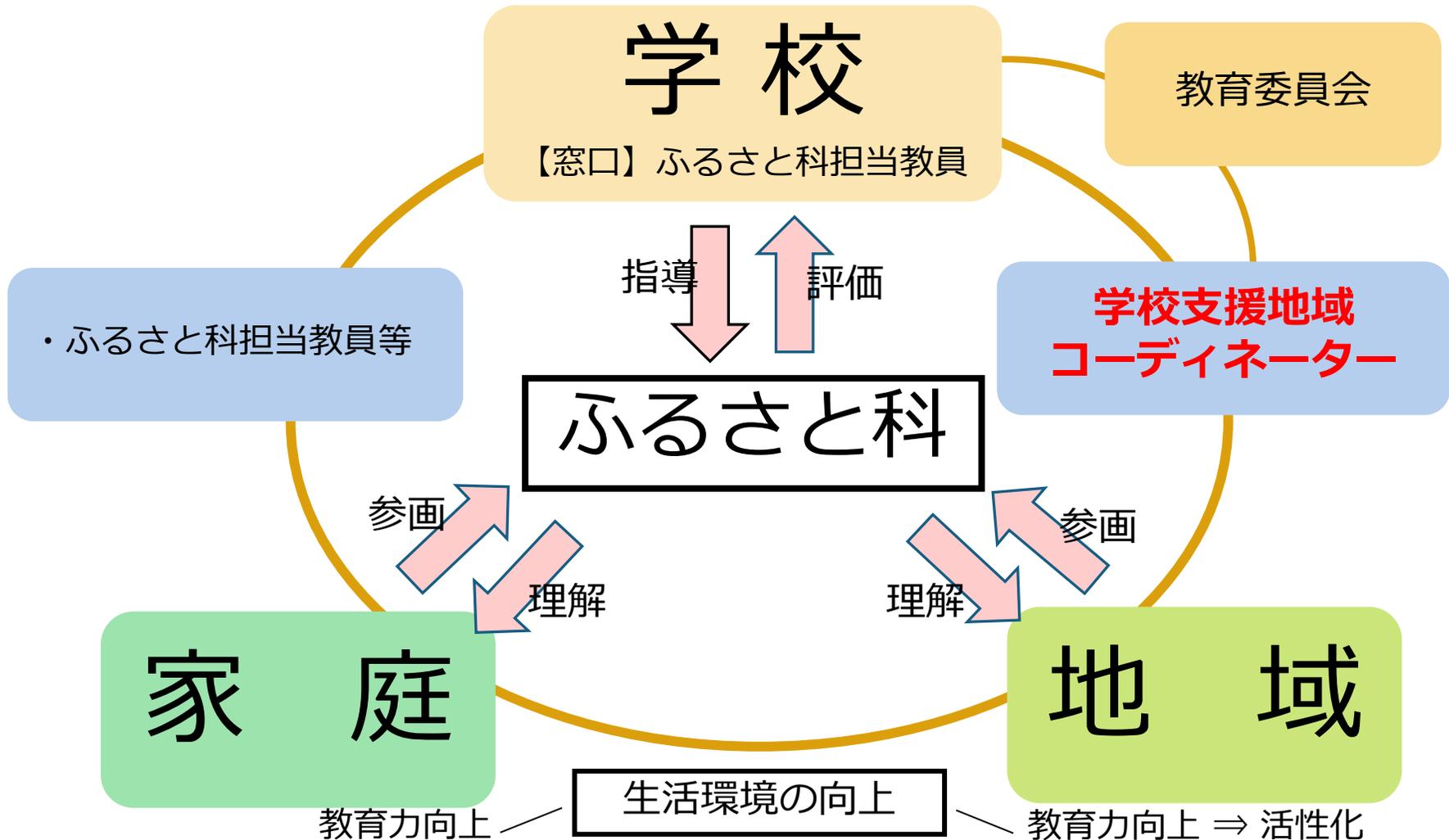
# 大槌の取り組みー昔あそび体験ー



# 大槌の取り組み—職場体験—



# 大槌の取り組みーふるさと科の仕組みー



# ふるさと科ー地域への愛着を育む学びの2つの視点

## 子どもたちの学びの視点

地域だからこそ伝えられる、  
地域だからこそ教えることのできることを  
学ぶことで、地域の輪郭がつけられる。  
(教職員も地域の力を借りることで  
これまで以上の成果が得られる)



↑ 地元の若い経営者団体による海の学習の様子



## 地域の学びの視点

地域が子どもたちの学びをつくるために、  
地域の「学び直し」と地域の「結び直し」  
が生まれる。何を子どもたちに伝えるべき  
かということを考えたり、話し合ったりする  
ことを通して、地域の輪郭がつけられる。



↑ 大槌の昔あそび体験



↑ 職場体験活動の様子

# **住民参加型の教育のあり方懇話会 （推進会議）の設置**

## 連携と協働 言葉の意味の違い

### 「連携」

活動を広げながら、学校・地域社会それぞれの特性を生かす。

### 「協働」

**共通の目標に向かって相互に意見を交わしつつ、  
それぞれの資源を最適に組み合わせて達成を目指す。**

## 海外事例を参考にする

### オハイオ州シンシナティの事例

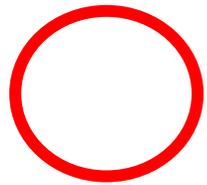
非営利団体ストライブ・パートナーシップ（StrivePartnership）は、シンシナティ広域都市圏からケンタッキー州北部の至るところで、**地域のリーダーたちを巻き込んで**、生徒の学業成績の危機に立ち向かい、教育を改善してきた。ストライブ設立からの4年間で、同団体のパートナーは3つの大きな公立学区において、**数十の重要項目で生徒の達成度を改善している**。景気後退や予算削減にもかかわらず、ストライブが追跡する53の成功指標のうち、高校卒業率、4年生の読解力と数学のスコア、義務教育を受ける準備のできた未就学児の数など、34の指標でポジティブな傾向が見られたのである。

出典・SSIR Japan 編『これからの「社会の変え方」を探しにいく。

——スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10



**1つの組織で完結できる解決策を見つけ出して**資金を提供する。そこには、「最も効果的な組織は、1組織の規模拡大や活動の複製・再現によって、インパクトをもっと広げていけるはずだ」という期待もある。そして資金提供者側は、実験室で**病気の特効薬**を発見するのと同じように、「崩れつつある学校のための**特効薬**」があって、それを見つけさえすればよいとでもいうかのように、より効果的な介入を探している。



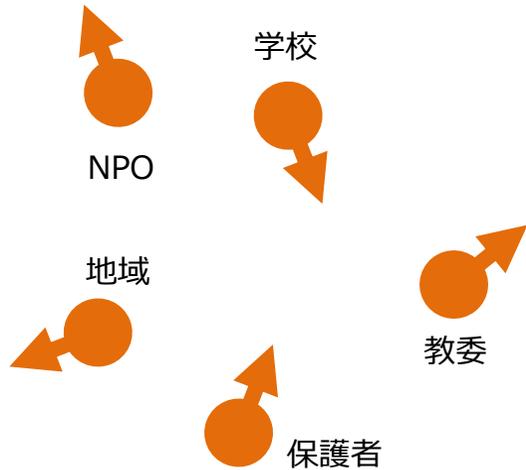
コレクティブ・インパクト  
(集合的インパクト)



アイソレーテッド・インパクト  
(個別的インパクト)

# コレクティブ・インパクトを応用して地域とともにある学校づくりを考える

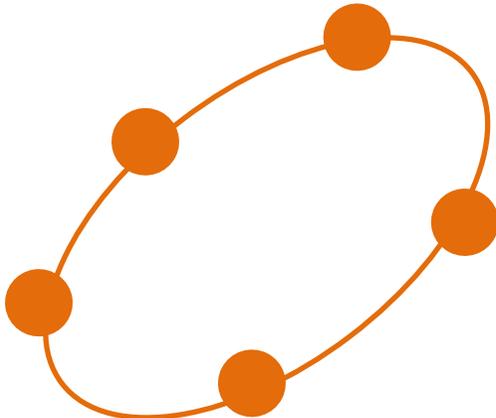
アイソレーテッドインパクト



変化のポイント

コレクティブインパクト

ゆるやかに連携しながら  
同じ方向を目指す



## ①相互の実践を補完・補強し合う

相手を頼ることで信頼とコミュニケーションが生まれる。補完・補強する具体的な実践で連携する。

## ②共通の目標（ビジョン）をつくる

価値観をすり合わせながら、目指す先を共有。裏付けされる背景、理念を共有し、共通の目標をつくる。

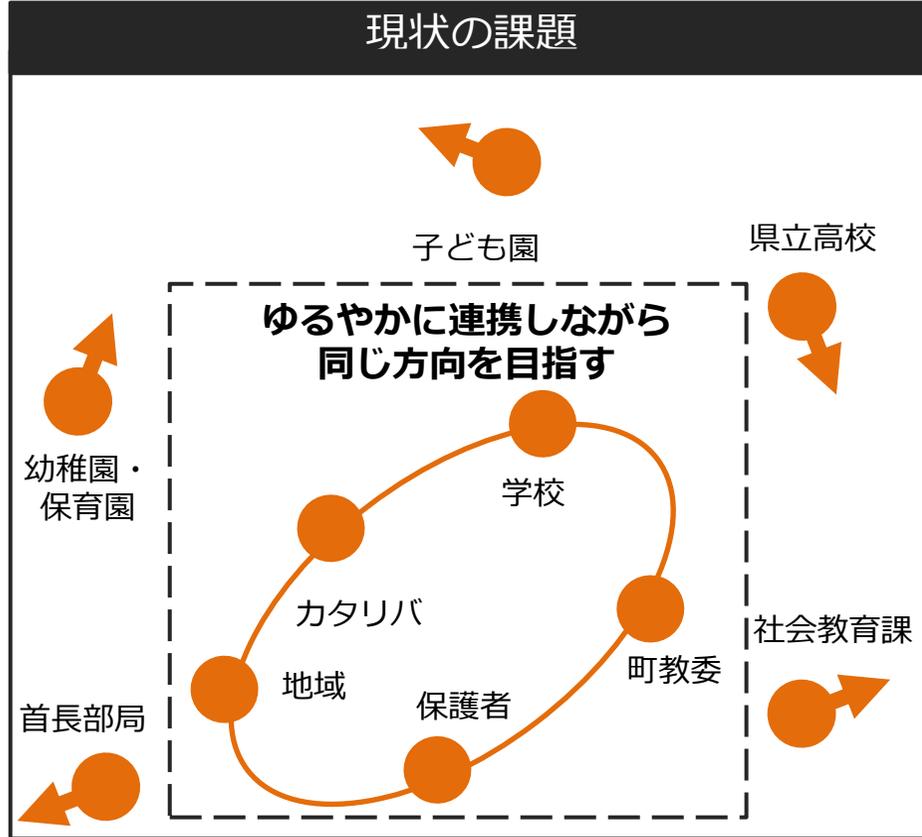
## ③生まれた成果を振り返る

共通の具体的な指標を設定し、変化の要因を共有し、良い成果を関係者全員で振り返る

## ④関係の質を上げる

お互いの理念、目指すところ、こだわり等を深く理解し、安心して話しをすることができる。

# 共通の目標（ビジョン）をつくる取り組み



地方教育行政の組織及び運営に関する法律（H27改正）を根拠につくる

## 大槌町教育大綱を徹底熟議型で策定



# 商店・企業 分科会



# 教育大綱策定の道筋

## 熟議でつくる教育大綱の策定

### 総合教育会議

総合教育会議にて、首長・教育委員で教育大綱を決定  
みんなでつくる“教育の町  
「おおつち」”宣言として、  
首長が宣言！  
H30年度から実現に向けて  
動き出していく



宣言  
する

### テーマ分科会

幼保や県立学校なども  
交えながら、どんな町民  
にあふれる町に  
したいかや、大槌の  
今後のあるべき教育に  
ついて熟議を行った



場に  
集う

### 大綱策定懇談会

テーマ分科会、  
大槌教育未来会議を  
受けてこれまでの思いを  
言葉に



言葉を  
紡ぐ

### 大槌教育未来会議

郷土芸能・部活動  
地区子ども会を  
テーマに地域の代表者  
と文部科学大臣補佐官  
の鈴木寛先生にご意見を  
頂き 深めていきました



深める

# 参考：熟議（会議）の流れ

1月   7月	テーマ分科会	魅力あるおおつち型教育のための先進地勉強会	参加者  390	
		魅力あるおおつち型教育のための懇談会		
		大槌町行政職員		大槌高校教職員
		大槌学園教職員		吉里吉里学園教職員
		大槌高校生徒		大槌学園生徒
		吉里吉里学園生徒		商店・企業
		幼稚園・保育園スタッフ		沢山地区
		保護者		全体懇談会
10月		大槌教育未来会議	120	
11月   1月	言葉を紡ぐ	教育委員定例会	80	
		大槌町教育大綱策定懇談会		
		町長と語る会（各学校 生徒代表）		
		教育委員・社会教育委員懇談会		
2月		総合教育会議	10	



大槌学園生徒熟議



大槌教育未来会議



町長と語る会

# 出てきた意見

- ・自分のやりたいことを  
問い続ける
- ・多様性を  
受け入れられる
- ・大槌の歴史や  
文化を知りたい
- ・あいさつ
- ・他人任せにしないで  
行動してみる
- ・アイディアが出せる
- ・意見を発表できる
- ・思いやり
- ・周りを明るくする人  
でいたい
- ・自分の意見を持つ
- ・郷土を心の拠り所  
にしてほしい
- ・郷土に愛情を  
持ってほしい
- ・許せる
- ・世代を越えた交流
- ・大槌にもっと  
貢献したい
- ・異なる価値観の  
人と協働
- ・変化への対応
- ・子ども発案で実行

# 出てきた意見

- ・自分のやりたいことを  
問い続ける
- ・あいさつ
- ・意見を発表できる
- ・自分の意見を持つ
- ・許せる
- ・世代を越えた交流
- ・大槌にもっと  
貢献したい
- ・多様性を  
受け入れられる
- ・他人任せにしないで  
行動してみる
- ・思いやり
- ・郷土を心の拠り所  
にしてほしい
- ・異なる価値観の  
人と協働
- ・大槌の歴史や  
文化を知りたい
- ・アイデアが出せる
- ・周りを明るくする人  
でいたい
- ・郷土に愛情を  
持ってほしい
- ・変化への対応
- ・子ども発案で実行

# 全体懇談会



# 全体懇談会



# 出てきた意見

- ・大槌にもっと貢献したい
- ・大槌の歴史や文化を知りたい
- ・郷土を心の拠り所にしてほしい
- ・郷土に愛情を持ってほしい

- ・あいさつ
- ・周りを明るくする人でいたい
- ・思いやり
- ・許せる
- ・多様性を受け入れられる
- ・世代を越えた交流
- ・異なる価値観の人と協働

- ・アイデアが出せる
- ・自分の意見を持つ
- ・意見を発表できる
- ・自分のやりたいことを問い続ける
- ・他人任せにしないで行動してみる
- ・変化への対応
- ・子ども発案で実行

# 出てきた意見

## ふるさとづくり

町の伝統文化  
豊かな自然への  
深い体験を通して

ふるさと大槌に  
愛着・誇りを持ち

未来につなげる  
ふるさとづくりに  
貢献する力

- ・あいさつ
- ・周りを明るくする人でいたい
- ・思いやり
- ・許せる
- ・多様性を  
受け入れられる
- ・世代を越えた交流
- ・異なる価値観の  
人と協働

- ・アイデアが出せる
- ・自分の意見を持つ
- ・意見を発表できる
- ・自分のやりたいことを  
問い続ける
- ・他人任せにしないで  
行動してみる
- ・変化への対応
- ・子ども発案で実行

# 出てきた意見

## ふるさとづくり

町の伝統文化  
豊かな自然への  
深い体験を通して

ふるさと大槌に  
愛着・誇りを持ち

未来につなげる  
ふるさとづくりに  
貢献する力

## 交流・つながり

自ら多様性を受け入れ  
世代や地域、言語が  
異なる価値観・文化  
との交流を通して、

立場の違いを越えて  
積極的に協働する力

- ・アイディアが出せる
- ・自分の意見を持つ
- ・意見を発表できる
- ・自分のやりたいことを  
問い続ける
- ・他人任せにしないで  
行動してみる
- ・変化への対応
- ・子ども発案で実行

# 出てきた意見

## ふるさとづくり

町の伝統文化  
豊かな自然への  
深い体験を通して

ふるさと大槌に  
愛着・誇りを持ち

未来につなげる  
ふるさとづくりに  
貢献する力

## 交流・つながり

自ら多様性を受け入れ  
世代や地域、言語が  
異なる価値観・文化  
との交流を通して、

立場の違いを越えて  
積極的に協働する力

## 主体性

自らのありたい姿や  
志を深め、  
物事を探求する意欲を  
自らの中に持ち、

主体的に意見表明や  
行動ができる

# 出てきた意見

## 創造

町の伝統文化  
豊かな自然への  
深い体験を通して

ふるさと大槌に  
愛着・誇りを持ち

未来につなげる  
ふるさとづくりに  
貢献する力

## 協働

自ら多様性を受け入れ  
世代や地域、言語が  
異なる価値観・文化  
との交流を通して、

立場の違いを越えて  
積極的に協働する力

## 自立

自らのありたい姿や  
志を深め、  
物事を探求する意欲を  
自らの中に持ち、

主体的に意見表明や  
行動ができる

# ①地区子ども会



# ②部活動



# ③郷土芸能



# 教育大綱策定の道筋

## 熟議でつくる教育大綱の策定

### 総合教育会議

総合教育会議にて、首長・教育委員で教育大綱を決定  
みんなでつくる“教育の町  
「おおつち」”宣言として、  
首長が宣言！  
H30年度から実現に向けて  
動き出していく



宣言  
する

### テーマ分科会

幼保や県立学校なども  
交えながら、どんな町民  
にあふれる町に  
したいかや、大槌の  
今後のあるべき教育に  
ついて熟議を行った



場に  
集う

### 大綱策定懇談会

テーマ分科会、  
大槌教育未来会議を  
受けてこれまでの思いを  
言葉に



言葉を  
紡ぐ

### 大槌教育未来会議

郷土芸能・部活動  
地区子ども会を  
テーマに地域の代表者  
と文部科学大臣補佐官  
の鈴木寛先生にご意見を  
頂き 深めていきました



深める

# 策定した教育大綱 (H30年3月公示)

みんなで作る  
“教育の町  
「おおつち」”宣言

## 大綱の理念

「学びがふるさとを育て  
ふるさとが学びを育てる町  
おおつち」

### 町民のあり方・目指す姿



#### 町民のあり方

ふるさとを愛し  
ふるさとを形づくる

—ふるさと大槌に愛着・誇りをもち、  
未来につなげるふるさとづくりを進んで行う

#### 目指す姿

「自立」主体的に行動する

—自らの進む道や地域社会に起こる課題を  
ジブンゴトとして行動できる人

「協働」多様な人々と協力する

—多様性を受け入れ、世代・地域・言語が異なる  
人と立場の違いを越えて協力できる人

「創造」逆境に立ち向かう

—想定外のことや困難な状況でも乗り越えようと  
するしなやかな心や、助けを求めたり、体験から  
学びを得たりしようとする姿勢を持ち合わせる人

### 基本方針：4つの柱

#### つなげる

生涯を通してつながる学び

・0歳から18歳を見通した  
幼保小中高・地域の一貫した教育の推進

・地域自らが主体となって行う、公民館活動の推進  
による世代を超えたつながりある地域づくりの実践

#### 広げる

地域へと広がる魅力的な学び

・地域を舞台とした魅力的な  
高等学校教育実現に向けた協働

・学校・家庭・地域・行政・子どもが  
一体となった学校運営の実践

・主体性のある豊かな学びを  
支える放課後学習の場の保障

#### ともし

町民の活動意欲や思いに火をともし

・多文化共生・姉妹都市交流の促進

・スポーツ・芸術文化・読書等、  
生活を彩る町民活動の充実

・郷土固有の伝統文化、文化財に触れる機会の充実

#### 支える

学ぶ環境の整備

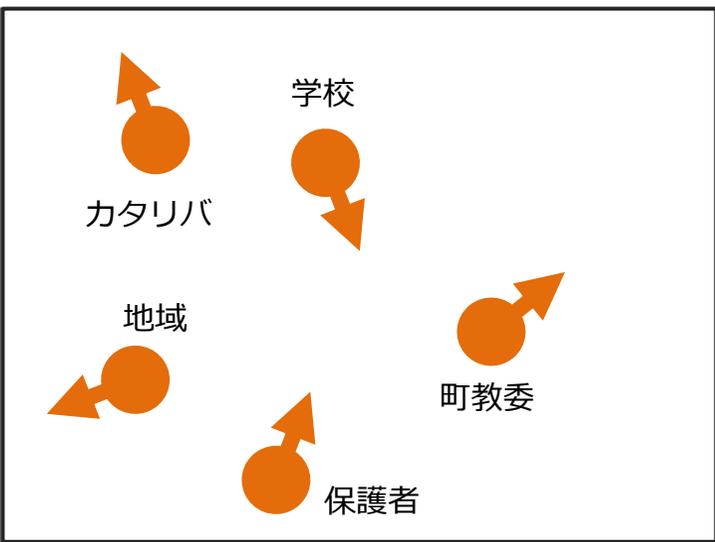
・安全・安心に学ぶことのできる環境の整備

・学びに関わる全ての人にとって  
働きがいがあり学び育つことのできる環境の整備

・生まれ育つ環境に左右されずに  
学ぶことのできる機会の保障

# 連携から学びあふれる生態系へ

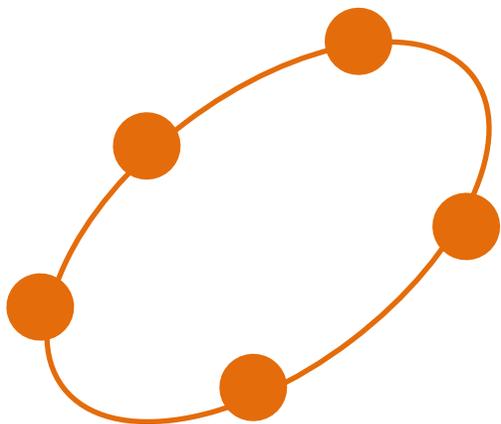
それぞれがバラバラに動く



変化のポイント

連携・協働

ゆるやかに連携しながら  
同じ方向を目指す



## ①関係の質を上げる

お互いの理念、目指すところ、こだわり等を深く理解し、安心して話しをすることができる。

## ②相互の実践を補完・補強し合う

相手を頼ることで信頼とコミュニケーションが生まれる。補完・補強する具体的な実践で連携する。

## ③共通の目標（ビジョン）をつくる

価値観をすり合わせながら、目指す先を共有。裏付けされる背景、理念を共有し、共通の目標をつくる。  
(学校経営目標、教育大綱、憲章など)

## ④生まれた成果を振り返る

共通の具体的な指標を設定し、変化の要因を共有し、良い成果を関係者全員で振り返る

これからのキーワード

## 0 次期教育振興基本計画のコンセプト

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響とロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化（予測困難な時代）  
⇒ 浮き彫りになった課題と学校・教育の役割、学びの変容
- 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出すための教育の実現にむけた個別最適・協働的な学び、学習者主体、「自立」、「協働」、「創造」という基軸の発展的継承  
⇒ 共生社会の実現、多様な個人と地域や社会のウェルビーイングの実現
- グローバル化、少子化・人口減少の中で、持続可能な社会の発展を生み出す人材の育成  
⇒ 主体的な社会形成参画、生涯学び続ける学習者、課題の発見・解決のための学びをいつでも受けられる環境整備
- デジタルトランスフォーメーション（DX）を教育・学習全体の中に組み込む

これらを通じた  
Society  
5.0の実現

## I 我が国の教育をめぐる現状と課題

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

▶ 教育振興基本計画は、予測困難な時代における我が国の教育の方向性を示す**羅針盤**となるもの

### 第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善と支援スタッフの充実 等
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、認証評価のための法改正、連携・統合のための体制整備 等
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や長寿命化、耐震化の実施 等

### 第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな人的交流の減少や体験活動の停滞
- ・いじめの重大事態の発生件数や児童生徒の自殺者数の増加
- ・学校における長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・教育改革に対する大学間の取組差、博士課程進学率の低さ 等

### 社会の現状や変化への対応

- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・新型コロナウイルス感染症、学校の福祉的役割
- ・社会のDXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・国際情勢の不安定化
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・共生社会・社会的包摂
- ・18歳成年・こども基本法

等

## II 今後の教育政策に関する基本的な方針

# ウェルビーイングというキーワードが注目されている

等

## Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的な方針

### ① 日本社会に根差した ウェルビーイングの向上・ 共生社会の実現に向けた 教育の推進

- ・誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す学びを日常の教育活動に取り入れることにより、一人一人のウェルビーイングを向上
- ・子供が抱える課題が多様化・複雑化する中で、個別最適な学びと協働的学びの一体的充実やマイリティの子供の強みに着目するエンパワメントの視点により、多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進
- ・調和と協調ある日本発のウェルビーイングとして「主観的な幸福感」「開放的協調性と多様なつながり」「自己肯定感と自己実現」を重視
- ・教師のウェルビーイングの確保、社会教育を通じた地域コミュニティを基盤としたウェルビーイングの実現
- ・組織の境界を越えた学び合い、風通しの良い組織形成を重視し、同調圧力への偏りから脱却

# ウェルビーイングというキーワードが注目されている

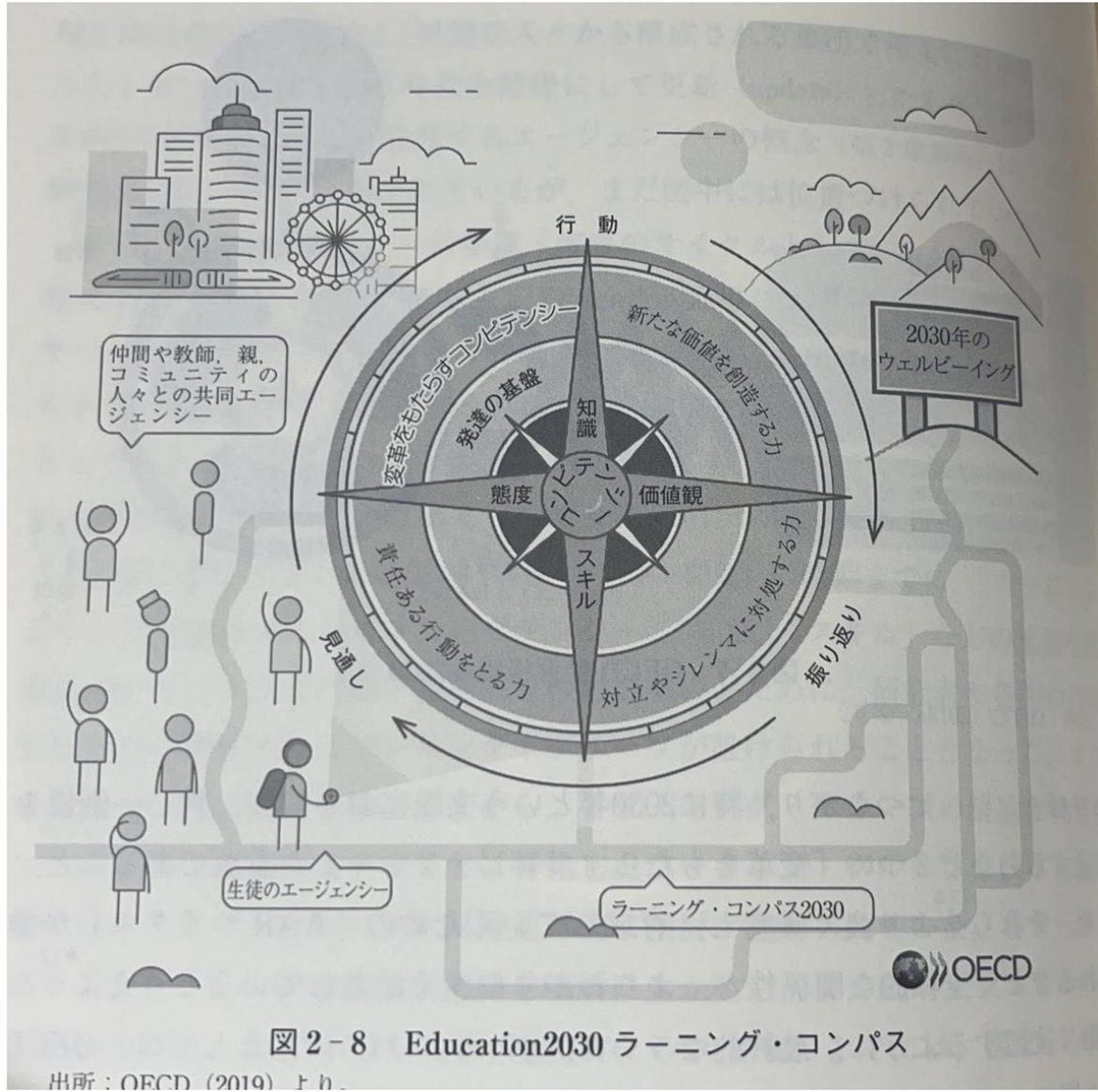


図 2-8 Education2030 ラーニング・コンパス

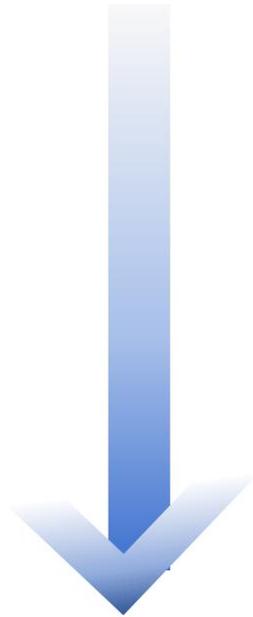
出所：OECD (2019) より。

OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来

# ウェルビーイングの視点は 個人の幸福と他者の幸福、社会の幸福がある

- 今が楽しい  
（個人・現在）
- これからの将来に希望を持てる  
（個人・将来展望）
- クラスや地域の人々の幸せを願う  
（社会・共生）
- この町・学校・世界を良くしていきたい  
（利他性・公共・持続）

ウェルビーイングの  
深化



地域・こどもたちがそれぞれ幸せに生きるため  
こどもたちの**主体性**を軸として、  
地域とこどもたちが**共に学び合い、高め合う地域づくり**

- 主体性を生かした**プロジェクト型学習**の導入
- 教育課程特例校制度を活用し、  
**地域とともに高め合う科目**を設置
- **住民参加型**の教育のあり方懇話会（推進会議）の設置